

金沢で建機教習 能登の復興支援

建設機械の加藤製作所が能登半島地震のボランティア育成の一環として、ミニショベルの操作教習を始めた。建機レンタルのカナモトと組んで4月27、28日に金沢市で開始し、今後もニーズがあれば実施する。被災地は人手不足が深刻で、損壊家屋がそのままになっている場所が多い。作業の本格化をにらみ人材面で協力する。

4月28日午後、カナモトの金沢営業所（金沢市）。金沢大学や金沢工業大学の学生8人が加藤製作所の講師からミニショベルの操作法を教わった。金沢工大の2年生で機械工学を学ぶ毛塚裕人さんは「複数の機部分を運動させることに気が使ったが、思ったより簡単。もっと回数を重ねてうまくになりたい」と話した。機体重量が3ト未満のミニショベルの運転は法令で特別教育の実施が課せられている。学科7時間、実技6時間の教習を受ければ作業できる。加藤製作所は群馬教習センター（群馬県太



参加者8人に専任講師が操作法を指導した（金沢市）

カナモトと解体担い手、確保の一助に

田市）から専任講師を金沢市に派遣し、27日に油圧装置の構造などを学ぶ学科、28日に実技の教習を無償で実施した。

2日間ミニショベルを学んでも整地や掘削といった作業をベテラン操作者並みにできるわけではない。それでも例えば「倒れたブロック塀を別の場所に動かす作業は、ミニショベル1台で10人分の作業ができる」（加藤製作所の前田英智執行役員）。操作できる人が1人いるだけで、効率は上がる。

加藤製作所は2月、道路整備などのインフラ復旧作業を想定し水圧で土砂を崩して吸いあげる機能を持つ「吸引車」を能登の被災地に提供した。同時にミニショベルを使えるボランティアを増やす手も探った。群馬教習センターに石川県内から希望者を招くことも検討したがカナモトから申し出があり、金沢での教習が実現した。

加藤製作所は「能登の地区単位で学びたい、あるいは東北などで被災を経験したグループが別の被災地の力になりたいという事例があれば教習の開催を検討したい」（前田執行役員）。カナモトも「全国に550純取締役」という。

能登地震で石川県内で全壊・半壊した住宅は同県の集計（4月26日現在）で2万4000棟弱。一方、石川労働局によると家屋の解体に従事する「建設躯体（くたい）工事従事者」の3月の有効求人倍率は13・74倍と、担い手不足は深刻だ。能登は交通の便が悪く宿泊場所も十分に確保できていないこともあり、ボランティアの活躍の機会は限られている。ただ、長時間を要するであろう能登の復興や国内他地域での災害に備えるためにも建機の操作者が増えることは意味を持つ。